

子ども虐待の現状と背景

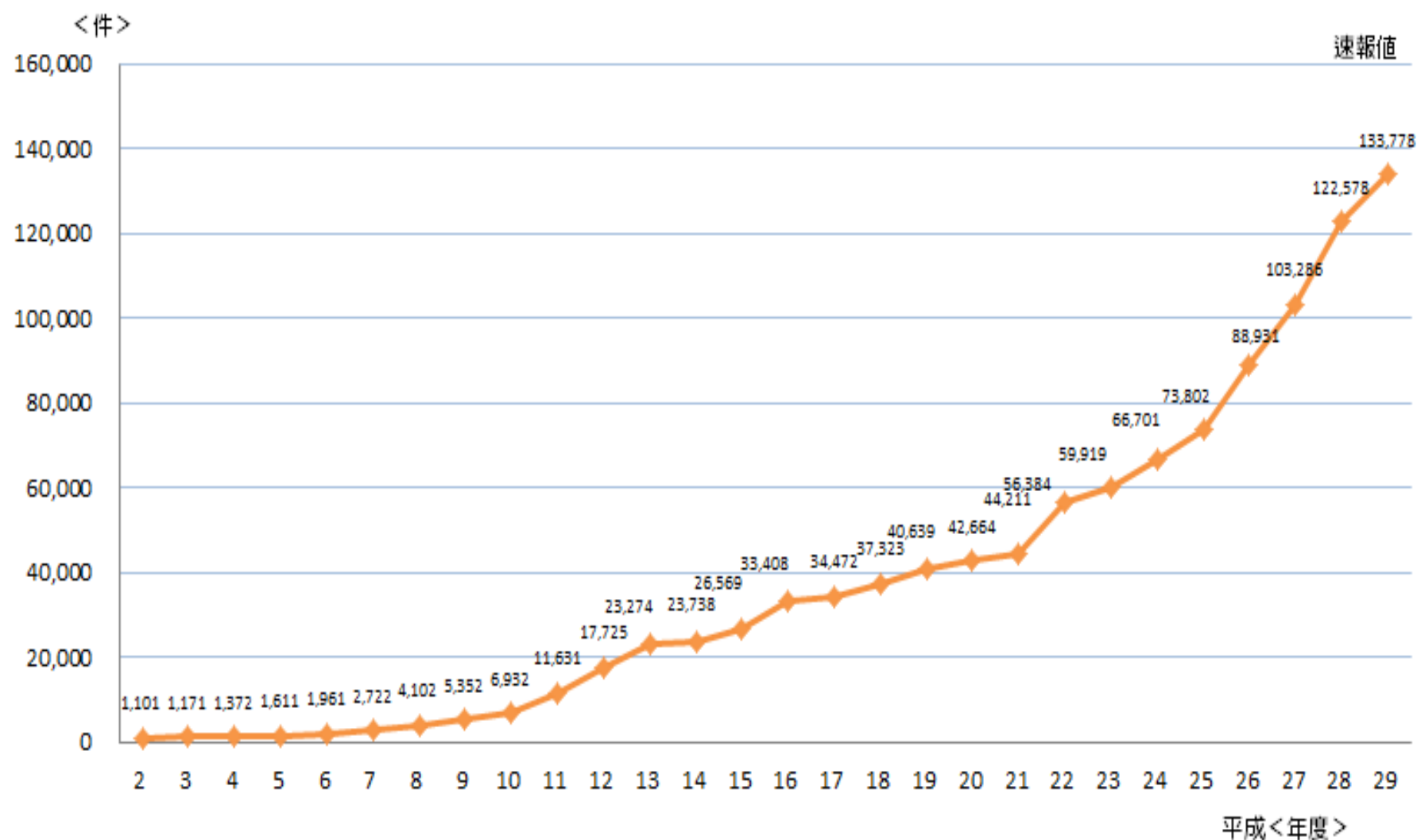
～ 基礎編 ①理解 ～

福岡市子ども家庭支援センターはぐはぐ
河浦龍生

平成はどのような時代であったか

- * 子ども虐待の存在を認識し、なくす努力を続けたが増え続けた時代
 - ・H2年度1,101件～H30年度159,850件
 - ・死亡人数1,306人(H15年7月～30年3月)
- * 子どもへの暴力と女性への暴力が増え続けた時代

児童相談所における児童虐待相談対応件数



児童相談所での虐待相談の内容別件数の推移

○ 平成30年度は、心理的虐待の割合が最も多く、次いで身体的虐待の割合が多い。

	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待	総 数
平成21年度	17,371 (39.3%)	15,185 (34.3%)	1,350 (3.1%)	10,305 (23.3%)	44,211 (100.0%)
平成22年度	21,559 (38.2%)	18,352 (32.5%)	1,405 (2.5%)	15,068 (26.7%)	56,384 (100.0%)
平成23年度	21,942 (36.6%)	18,847 (31.5%)	1,460 (2.4%)	17,670 (29.5%)	59,919 (100.0%)
平成24年度	23,579 (35.4%)	19,250 (28.9%)	1,449 (2.2%)	22,423 (33.6%)	66,701 (100.0%)
平成25年度	24,245 (32.9%)	19,627 (26.6%)	1,582 (2.1%)	28,348 (38.4%)	73,802 (100.0%)
平成26年度	26,181 (29.4%)	22,455 (25.2%)	1,520 (1.7%)	38,775 (43.6%)	88,931 (100.0%)
平成27年度	28,621 (27.7%)	24,444 (23.7%)	1,521 (1.5%)	48,700 (47.2%)	103,286 (100.0%)
平成28年度	31,925 (26.0%)	25,842 (21.1%)	1,622 (1.3%)	63,186 (51.5%)	122,575 (100.0%)
平成29年度	33,223 (24.8%)	26,821 (20.0%)	1,537 (1.1%)	72,197 (54.0%)	133,778 (100.0%)
平成30年度 (速報値)	40,256 (25.2%) (+7,033)	29,474 (18.4%) (+2,653)	1,731 (1.1%) (+194)	88,389 (55.3%) (+16,192)	159,850 (100.0%) (+26,072)

※ 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値である。

※ 平成30年度の件数は、速報値のため今後変更があり得る。

子ども虐待による死亡(虐待死)事例 (H15年7月～H30年3月)

*779人

*乳児が373(149人=日齢0日)人(47.9%)

*1～5歳が300人(38.4%)

*6～15歳が73人(9.4%)

*16歳以上及び不明が33人(4.3%)

*身体的虐待が63.4%

平成はどのような時代であったか

- * 児童相談所の権限を強化し、要保護児童対策地域協議会設置、189通報システムなど仕組みを作ったが
- * H30年東京都目黒区女児死亡事件、H31年千葉県女児死亡事件、R元年札幌市幼児衰弱死事件、鹿児島幼児溺死事件、福岡県幼児エアガン連射死亡事件
- * 子どもを救えない、子ども虐待対応と社会

平成はどのような時代であったか

- * 1990年代から**子どもの自殺が増え続けている**
- * H30年度の全国小中高の児童・生徒の自殺者数332人(文部科学省)。自殺した子どもの数は前年度より82人増え、1986年(S61年)以降で最多
- * 「指導死」61人(指導死親の会2016)
- * H19年からH28年、教師との人間関係での子どもの自殺37人(警察庁)

子ども達の生きづらさ

- * 10歳から14歳の死因第2位自殺
 - * 15歳から19歳の死因第1位自殺
 - * 20歳から24歳の死因第1位自殺
 - * (15歳～34歳の死因第1位自殺)
-
- * 厚生労働省「2018年人口動態統計」

子ども虐待の4つのタイプ

* 身体的虐待

身体に外傷が生じ、又は生じるおそれがある暴行(殴る蹴る、叩く)、生命の危険をさらす行為

* 性的虐待

猥褻な行為をすること又は猥褻な行為をさせること、こどもを性の対象とするすべての行為

心理的虐待

著しい心的外傷を与える行為、DV目撃(他兄弟虐待の目撃)兄弟間の差別、無視、拒絶

* 養育の怠慢と拒否(ネグレクト)

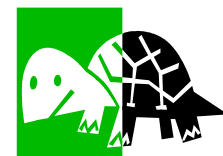
心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること、情緒的要求に応えない、同居者の虐待行為を放置

改正児童虐待防止法体罰定義

- *「子どもへ身体の苦痛又は不快感を与える行為」(軽くても禁止)
 - ・頬を叩く、お尻を叩く、痛みをわからせるため殴る
 - ・長時間の正座
 - ・罰として夕食を与えない
- *暴言も人権侵害や虐待にあたる

国連子どもの権利委員会の定義

- *「有形力が用いられ、かつ何らかの苦痛または不快感を引き起こすことを意図した罰」
- *体罰はどんな場合にも子どもの品位を傷つけるもの
- *その他の罰も存在する。たとえば、子どもをけなし、屈辱し、身代わりに仕立て、脅迫しこわがらせ、又は笑いものにするような行為



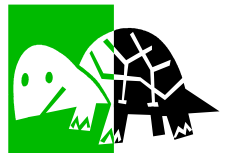
ネグレクトの定義

- *子どもに責任を担っている養育者が、故意に、あるいは常識を越えた配慮の不足によって、大人が援助すれば避けることができる危険に子どもをさらすこと。又、**子どもの身体的、知的、情緒的な能力の発達に不可欠であると考えられているものを、子どもに提供しないこと**

Polansky 1975

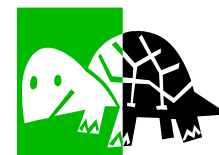
ネグレクトとは

- * 直接子どもに被害をもたらすもの
- * ネグレクトの影響で、心身の発達が遅れたり、情緒や行動上の問題が引き起こる
- * さらに思春期以降、非行、不登校、引きこもりなど



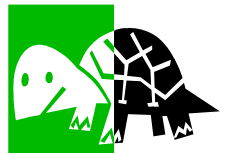
ネグレクトの領域

- * 身体的ネグレクト
- * 医療ネグレクト(乳幼児健診未受診)
- * 保護(同居者の行為の黙認)・監督
- * 情緒的ネグレクト
- * 教育的ネグレクト
- * 放棄



子ども虐待対応の手引き(国)

- * 子どもへの健康(心身)・安全への配慮を怠る
- * 子どもの意思に反して学校等に登校させない。
学校(幼稚園、保育園)に登校するように促すなど、子どもに教育を保障する努力をしない
- * 必要な情緒的要求に応えていない
- * 食事、衣服、住居などが極端に不適切で健康を損なう程の無関心・怠慢など
- * 子どもを遺棄する
- * 同居人の虐待行為を放置する



心理的虐待とは

- * 保護者からの無視、拒否、言葉の暴力恐怖を与える、DVなど暴力的な環境に晒す、孤立させる、過干渉、過剰な期待等により子どもを傷つけるものを言う
- * その程度は、子どもに現れた心理的・情緒的な影響の度合いによって評価
—国通知「児童相談所と市町村共通アセスメントツール」

心理的情緒的影響とは

- * 分離の意志(帰宅拒否、保護を希望・同意等)
- * 養育者への思い(怯える、怖がる、嫌がる、委縮、口止めに応じる)
- * 精神状態(極めて不安定、不安定な状態、自傷行為、うつの、暗い、表情が乏しい、笑わない、視線が合いにくい)
- * 性格行動面の問題(多動、落ち着かない、誰でも親しく話す、暴力的、虞犯行為、性的言動、過剰適応)

—国通知「児童相談所と市町村共通アセスメントツール」

情緒的ネグレクトと情緒的虐待

- * ネグレクトは、子どもの情緒的ニーズを消極的に無視する、注目や刺激が欠ける、保護者としての、養育・指導・教育の能力の不足
- * 親の不注意、無知、抑うつな気分、無秩序な生活態度、貧困、支援の欠如、子育てモデルの欠如
- * 知らず知らずのうち、子どもの発達とウェルビーイングを損なう

—ドロタ・イワニエク—

情緒的ネグレクトと情緒的虐待

*情緒的虐待は、子どもの情緒的ニーズ
(心理的安全感、敵意や暴力のない家
庭環境、いつでも子どもの求めに応じら
れる養育者、自尊心＝愛情、安心感、
注目、新しい経験、受容、教育、承認、
帰属意識)を妨害する

情緒的虐待

*情緒的虐待とは、親の敵意ある、あるいは冷淡な行為によって、子どもの自尊心が傷つけられ、達成感が奪われ、人としての一体感が薄れ、健康的で活気あふれた発達をはばまれ、子どものウェルビーイングが奪われることである

—ドロタ・イワニエク—

情緒的虐待を受けている子どもは

- * 無視される、関心を持たれていない
- * 家族の活動や意思決定の場で積極的な役割を演じることを許されない
- * こだわりのない口調で話しかけてもらえることはめったにない
- * 特権や楽しみを与えてくれるものは絶対にももらえない
- * 些細なミスでもよく罰を受ける

情緒的虐待を受けている子どもは

- * しつこく嘲笑され、けなされる
- * 決して褒めてもらえない
- * 仲間・兄弟姉妹・他の人前で頻繁に恥ずかしい思いをさせられる
- * どんなに養育者を喜ばせようとしても、気づいてもらえないか軽視される
- * 注意を引こうとしたり、愛情を求めようとしても無視され、がっかりさせられる

情緒的虐待を受けている子どもは

- * 仲間とつき合せてもらえない
- * 「おまえが嫌いだ」「おまえのことは愛していない」と言われる
- * 家庭ないでうまくいかないことがあると自分のせいにされる
- * 適切な監督や指導を受けていない
- * 養育者に近づくことを許されない
- * 感情表現を禁じられている

マルトリートメントとの考え方

- *子どもの自己評価や情緒的な健康の発達を妨げるような行為であり、孤立させる威圧、脅し、恐がらせる、けなし、恥をかかせる等不適切な扱い
- *家族の投獄、精神疾患、薬物乱用、離婚や別居による親の不在など機能不全家庭での育ち

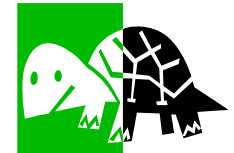
子ども時代の逆境体験 (ACE)

- * 子どもへの虐待
- * 家族の投獄、精神疾患、薬物乱用、
- * 家庭内暴力、離婚や別居による親の不在など**家族の機能不全**
- * 成人期の健康に有害な影響を及ぼす



虐待者はどんな親か

- * 育児(生活)負担や不安を抱える**孤立した母**
- * 情緒や行動が不安定な母
 - 母自身の**被虐待体験**、拒否と依存と攻撃
- * 強固な体罰肯定の父
 - ・父自身の**被虐待体験**、暴力と支配
 - ・必要か必要悪か、社会性があるかないか
- * 親子関係の悪化
 - 発達障がい、思春期危機
- * ステップファミリー
 - 中途養育による親子関係不全



福岡市子ども子育て支援ニーズ調査

(H30年約5.8千人回答)

- *乳幼児の保護者の70%が子育てに負担感や不安を感じている
- *子育てがつらいと感じることが多い、とてもつらい 10%

子育ての悩みは

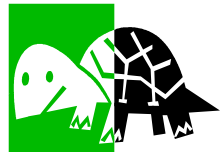
- ①しつけに関すること42%
- ②子育てで出費がかさむこと38% (前回15%)
- ③叱りすぎているのではないか29%

子育てアンケートから

- *「リトルママ」アンケート(H22約1千人)
 - ・加減をして叩いた70%、傷つく言葉37%、感情のままに叩いた23%
 - ・感情を抑えられずに叩いてしまった、頭ではいけないと思っても手が出てしまふ、育児負担でイライラしている。やってしまったことに自責の念

虐待者はどんな親か

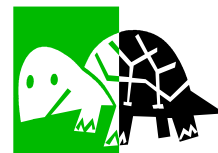
- * 未成熟、依存性、被害感、劣等感、攻撃性、自己中心性を持つ(子どもより自分優先)
 - * 子どもへの過剰・非現実な期待、放置、自己本位に操作しようとする。しつけについて誤った思いこみ
 - * 子どもの情緒的要求に適切に応答する力の乏しさ。力の養育にたより、柔軟性に乏しい
- * 親自身の被虐待体験に根ざす**



虐待者はどんな親か

- * 子どもを可愛く思えない
- * 子どもが、自分を嫌っている、憎んでいる
- * いつも寂しさや不安を抱え、子どもから癒されようとする
- * 自分の気持ちを子どもはわかっているはずなのに、私の気持ちを逆なでする
- * 嘘や言うことを聞かないのは絶対許さない

*** 親自身の被虐待体験に根ざす**



虐待の世代間連鎖

* 未解決のケア葛藤を抱える親

依存にまつわる葛藤。幼い頃、ネグレクトや拒否されてきたことによる親からの見捨てられ感や愛されなかったとの感情に由来

* 未解決のコントロール葛藤を抱える親

暴力にまつわる葛藤。(自分のコントロールを超えたところでの出来事が生じた場合の怒り)

幼い頃、理不尽な行動制限や暴力を受けてきたことによる無力感に由来

DVも子ども虐待の世代間連鎖

- * 子どもへの暴力や暴力が横行する家庭が将来のDV男性を育てている
- * 日本の身体的虐待の多さ
- * スポーツ界、教育界での暴力、家庭での暴力の蔓延＝体罰指向の親を再生産
- * 発達特徴との関連



虐待の世代間連鎖

- * 子ども虐待の多くは（概ね70%）育児不安や負担によるもの。程度は軽度であり、支援を受け入れる
- * 虐待の程度が中度から重度は（概ね30%）ほとんど、**親自身の被虐待体験に根ざしたものであり、支援が困難となる**

虐待の家族的リスク要因

- * 乳幼児期に親子の分離体験があり、親子双方に情緒的ずれがみられる
- * 子ども自身の誘因として、なつかない、聞き分けがない、育てにくい、**発達の遅れがある**など、虐待の悪循環を形成
- * 親族や近隣との関係が陰悪であったり、疎遠であったり、**社会的に孤立**
- * 家族の中に、経済問題を中心に多様なストレス、トラブル、**夫婦の相補性も低い**

発達障がいの頻度 (最近の論文を精査研究)

- * 知的障がい 1%弱
- * 自閉症スペクトラム障がい 2%強
(凸凹を含む10%?)
- * 注意欠如多動障がい 3~5%
(悉皆調査10%以上)
- * 学習障がい 5%
(悉皆調査10%)

—杉山登志郎(浜松医科大教授2018)—

発達障がいと子ども虐待

- * 発達障がいであることが理解されず、合理的配慮の欠如と「やらせる」「しつける」との不適切養育、その反応としての「問題行動」に不適切養育の悪循環
親の子どもへの拒否感の形成
- * 虐待の子どもへの影響が発達障がいの状態像、症状の増悪

虐待につながると思われる家庭・家族の状況

・ H25年全国児童相談所虐待実態調査(7,434件)

家庭の状況			あわせて見られる他の状況上位3つ		
1	虐待者の心身の状態	32.2%	①経済的困難	②ひとり親家庭	③育児疲れ
2	経済的困難	26.0%	①心身の状態	②ひとり親家庭	③不安定就労
3	ひとり親家庭	24.2%	①心身の状態	②経済的困難	③不安定就労
4	夫婦間不和	21.0%	①DV	②心身の状態	③経済的困難
5	DV	20.0%	①夫婦間不和	②心身の状態	③経済的困難

統計に見る家族の問題

*H21年全国児童相談所における 虐待の実態調査(8,108件)

・経済的困難	33.6%
・虐待者の心身の状態	31.1%
・ひとり親家庭孤立	26.5%
・夫婦間不和	18.3%
・DV	17.1%

池田由子さんの調査から

* 児童虐待調査研究会調査(昭和58年) による虐待家庭の問題

- ・経済的問題 57.9%
- ・家族関係の不和 49.8%
- ・父の転職の多さ 32.9%



平成はどのような時代であったか

- * 子どもの相対的貧困率が、H24年過去最悪となり(S60年以来)、H27年に改善されたが、**以前高い相対的貧困率**
- * 中央値はH9年より、53万円下がる。貧困線は変わらず

国民生活基礎調査(2015年)

- * 子どもの貧困率13.9% (280万人)
(全国民15.6% **非正規38.7%**)
- 中央値は245万と1万増加(H9年298万)したが、貧困線122万円(親子二人173万)は変わらず
- **一人親家庭は50.8% (母子家庭の4割が年収200万以下、生活 苦しい82.7%)**

生活保護基準以下で暮らしている世帯

* 全世帯の18.3%

* 子育て世帯の13.8% (1992年5.4%)

①沖縄37.5% ③鹿児島20.6%

④福岡19.9% ⑥宮崎19.5%

⑩熊本17.2%

* 補足率15.5%

— 山形大 戸室準教授2012 —

* 生活保護利用率1.6% (人口比日本弁護士会)

就学援助

* 要保護・準要保護世帯

(生活保護基準の1.1~1.3倍以下の収入)

- ・全国小中学生 15.2% (平成27年度)
- ・福岡県 22.3% (平成27年度)
- ・久留米市 25.4% (平成26年度)
- ・福岡市 23% (平成26年度)

貧困と不利の重なり

- * 借金、多重債務、破産、経済困窮、不定住
- * 離婚や失踪など、家族関係の変動
- * 夫婦間など家庭内の暴力、抑うつ、苛立ち、無力感、葛藤、心理的ストレス
- * 親の精神疾患や子どもの知的障がいなど
- * 非行、犯罪の被害、いじめられる、不登校、退学
- * 社会的孤立と家族機能不全＝逆境体験

貧困のプロセス

* 経済的貧困

- 必需品の不足
- 教育費の欠乏
- 経験の貧困

貧困の文化

- 暴力の文化
- ⇒ • あきらめの文化
- 個の否定の文化

発達の貧困

- ⇒ • 自己肯定感の低下
- 行動の無謀化
- 希望の喪失

久留米市子どもの貧困調査(H29年9月)

- * 児童生徒がいる2,275世帯から回答
 - ・可処分所得が122万以下
 - ・公共料金の滞納等「家計のひっ迫」
 - ・文具が買えない等「子どもの体験や所有物物の欠如」
- * 二つ以上該当＝困窮層(7. 5%)
- * 一つ該当＝周辺層(14. 6%) * 生活困難世帯
- * 該当なし＝一般層(77. 9%)

久留米市子どもの貧困調査(H29年9月)

* ゲーム機等使用が1日3時間以上

困窮(25.1%) 周辺(13.3%) 一般(10.7%)

* 医療機関未受診

困窮(24.7%) 周辺(3.0%) 一般(0.3%)

* 習い事に通わせられない

困窮(67.6%) 周辺(43.0%) 一般(6.4%)

* 学校の授業が分からない(中2)

困窮(67.6%) 周辺(43.0%) 一般(6.4%)

久留米市子どもの貧困調査(H29年9月)

* 自分に自信がある(小5)

困窮(51.8%) 周辺(67.5%) 一般(70.9%)

* 一人の食事「よくある」「時々ある」

困窮(37.7%) 周辺(28.4%) 一般(24.1%)

* ひとり親世帯

困窮(40.0%) 周辺(25.0%) 一般(7.7%)

* 将来に希望を持っている(保護者)

困窮(17.0%) 周辺(43.0%) 一般(63.5%)

子ども虐待と貧困の連鎖

*連鎖しているのは虐待そのものではなく貧困が連鎖しているのではないか、
隣保的な支え合いがなくなると困窮は
孤立を招く。虐待問題は現代の新しい
貧困ではないか

— 学習院大 滝川一廣 —

なぜ子ども虐待が増えたのか

* 育児の密室化、孤立化

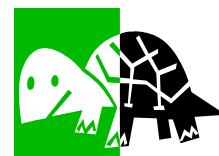
= 養育不安の増大、養育力低下

- 親族、親戚関係の希薄化
- 地域関係の希薄化・育児情報の氾濫

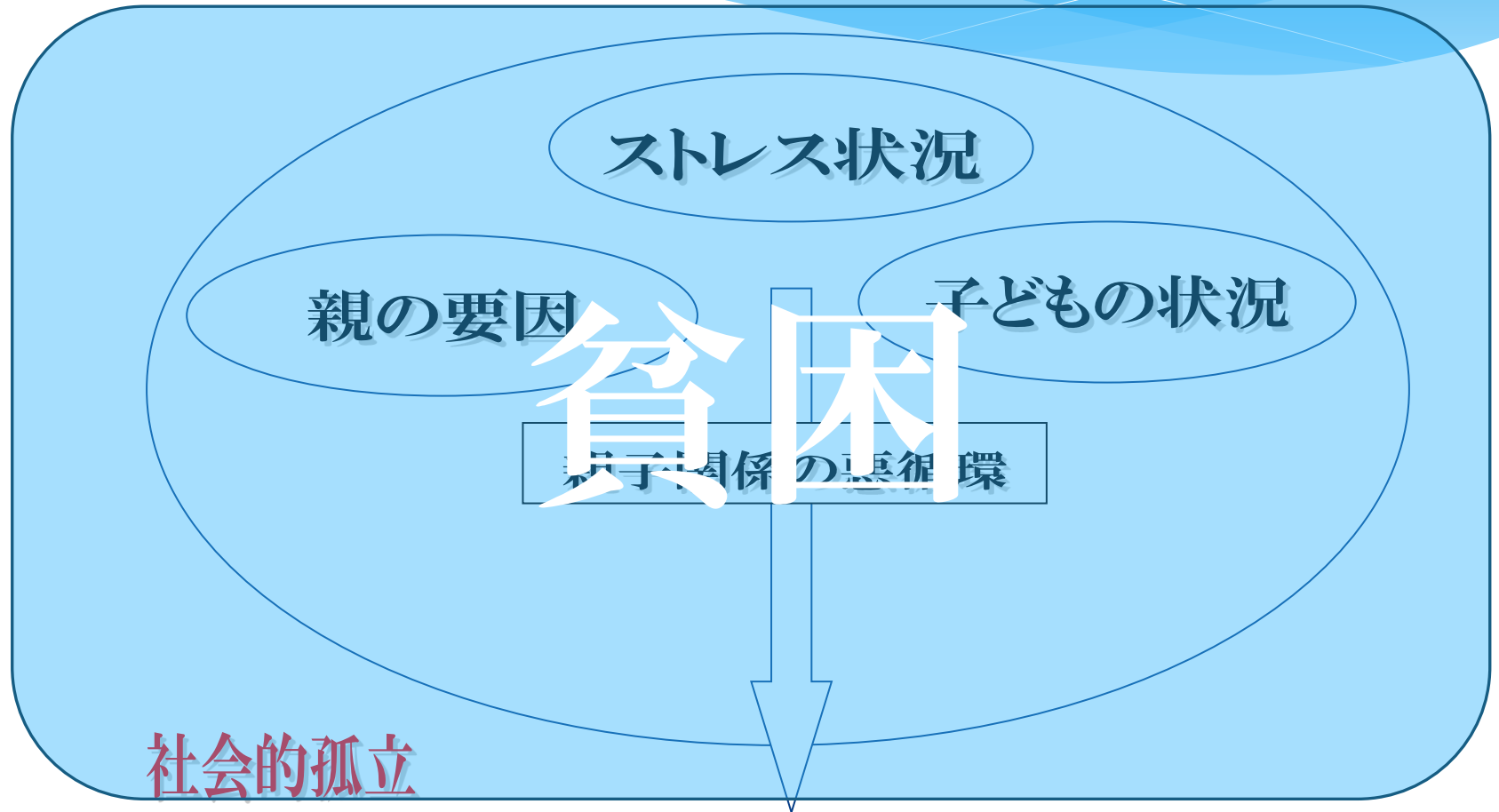
* 「親になりきれていない親」の増加？

- 社会的体験が乏しく未熟な親
- メディアと親子関係

* 格差社会と貧困、社会的排除



子ども虐待の発生要因



虐待(暴力やネグレクト)



虐待を考えるポイント

- * 加害者の行為がマルトリートメントと言えるかどうかには拘泥するのではなく、子どもを守ることが重要。例えば、親が知的障がいでも適切な養育が出来ない場合、親の責任能力がないからマルトリートメントではないという見方をすることはなく、子どもを守るという視点で、マルトリートメントに介入しなければならない
- * **親の意図や意志、状態に無関係**。子どもに有害であれば虐待と判断する

虐待を考えるポイント

- * 加害者の行為がマルトリートメントと言えるかどうかには拘泥するのではなく、子どもを守ることが重要。例えば、親が知的障がいでも適切な養育が出来ない場合、親の責任能力がないからマルトリートメントではないという見方をすることはなく、子どもを守るという視点で、マルトリートメントに介入しなければならない
- * **親の意図や意志、状態に無関係**。子どもに有害であれば虐待と判断する

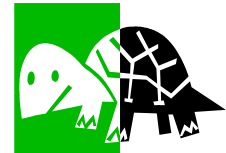
虐待を考えるポイント

- * こどもを利用して、親が自分自身の欲求や要求を満たそうとすること（役割逆転）
- * しつけの延長に体罰があるのではなく、
両者は異質＝しつけは、他律から自律を促すことであり、体罰は恐怖や痛みによる外からの行動制御

虐待による子どもへの影響

* 身体的影響

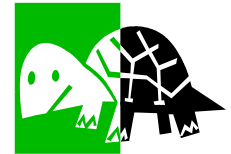
- 発育阻害
- 発達阻害
- 重度身体障がい
- 死亡



虐待による子どもへの影響

* 発達性トラウマ障害(複雑性心的外傷)

- 感情調節障害(生理的)
- 注意集中の問題
- 衝動抑制困難
- 攻撃性、危険を顧みない行動



* アタッチメント障がい

- 基本的信頼感や安心感欠如
- 共感性、道德感、良心の欠如

アタッチメントとは

養育者との間に形成される**情緒(心理)的絆**。そのような関係を築けないときや別離等を経験した場合、不安や怒りなどの情緒的苦悩を示し、心理面や行動面の症状を引き起こす

- * そもそも**養育者と子どもの絆**はどのように結ばれるか。その基本は、養育者が授乳や食物等生存に必要な栄養を与えてくれるからではないか、と考えられてきた。その後の研究で、、授乳や食物ではなく、**守られているという安心感や信頼**であるとの新たな認識

アタッチメントとは

- * 乳幼児が、親にしがみつき、保護を求め、生き延びていく、**サバイバルシステム**
- * 特定の養育者に注視時間が長く、泣いていても声かけられたり、見つめられたりすると泣き止む。人見知りや後追い
- * 乳幼児が、不安・恐怖・否定的感情が生じる時に安心できる大人(**愛着対象**)にくっついて安心を得ようとする行動。養育者との相互作用⇒(**安全基地**)⇒内在化

愛着対象の内在化とは

- * 安心感。外界への好奇心と探索行動
- * 子どもを内側から支える、「一人で居られる能力」
- * 愛着対象の行動、期待の予測。「見えなくても居る」(対象恒常性)
- * 道徳性、共感性の基礎。「お母さんが悲しむから・・・」
- * 社会的関わりへ自らの意志

内的作業モデル

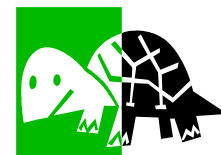
- * 子どもは、自分の行動で、養育者が安全確保のため、どのような行動するかというパターンを内在化する
- * このモデルで、養育者がどのような対応をしてくれるか予測して、自分の行動を制御するようになる
- * さらに養育者の状況も考慮して、自分の欲求や目標を達成できるように、自分のアタッチメント行動を調整するようになる

内的作業モデル

- * さらに、自己、他者、外界を理解したり、それに基づき、**自己の行動を制御する認知的枠組み**へと発達する
- * 養育者の応答性の累積により、養育者との愛着パターンが固定化し、他者イメージと自己イメージを形成(**主観的確信**)し、外的世界を予測し行動を制御システム
- * 幼児期の愛着パターンが対人関係パターンとして、将来に亘って固定化していく

安定したアタッチメント

- * 信頼できる**特定**の大人の存在、養育者のふるまいに見通しもつ
- * 安全基地の確保、探索行動
- * 他者イメージ（他者は困ったら助けてくれる）
自己イメージ（助けられる価値ある存在）
- * 自分を素直に表現、甘えられる
- * 困ったら、助けを求める
- * **共感的応答性の高い親**



不安定なアタッチメント

*回避型

- 無反応、近づかない、愛着のシグナルは最小限（最低限の安全感覚を得る為にあえて回避的）
- 他者は近づくto離れていく存在である
- 自分は拒絶される存在である
- 拒絶的な親、陰性感情を表出を嫌う

不安定なアタッチメント

*アンビバレント型

- 激しく泣いて求めたり、拒否したり、怒りの抗議、愛着のシグナルは最大限（関心を絶えず引きつける）
- 他者はいつ居なくなるかわからない
- 自分はいつ見捨てられるかわからない
- きまぐれな親、行動の一貫性がない予想しづらい

不安定なアタッチメント

* 混乱型

- 求めながら拒否したり逃げたり、近接と回避を同時に
- 安全基地が恐怖の基地、親の行動が予測不能
- 環境を統制、役割逆転、懲罰的、主導権
- 虐待親、精神的に極度な不安定、おびえさせる

不安定アタッチメント混乱型

- * 懐柔型は、親の機嫌をとったり、いい子になって親の関心を引き出し、操縦しようとする。自分を犠牲にして家族を繋ぎとめる。自分の犠牲や努力が足りないと脅迫的に考える
- * 懲罰型は、力や罰で支配＝自己犠牲では報われず、傷つき、強い怒りと憎しみ、支配と搾取で復讐することで補償する
- * 虐待親、精神的に極度に不安定、怯えさせる

不安定アタッチメント混乱型

- * 子どもの暴言や暴力、暴れるのは、
- * 子どもへのわずかな、外界のサイン、身体の不調、支援者その他への欲求不満が、途方もない危険なサインとしてアタッチメントの過剰な活性化とほころびの多い防衛方略が引き起こされている(かつての経験の生起、内在化の活性化と現実化)
- * 怯え、怯えさせる養育の内在化による「解決のない恐怖」である — 工藤晋平 —

アタッチメントの問題を抱えているとは

* 自己統制の問題と対人関係の問題

- 落ち着かない、他動、かんしゃく、衝動的行動、徘徊、睡眠、摂食、排泄
- 乱暴、喧嘩、トラブル頻発
- 二次的に疎外される

発達障がい、支援で必要なこと

- * 二次障がいを防ぐ

- * 二次障がいとは

情緒障がい＝アタッチメント障がい

- * 情緒障がいとは

感情のかたよりと激しさによる情動制御困難（良好な対人関係が結びにくく自尊心の低下と行動化）

アタッチメントスペクトラム

*安全型(安定型)

* ⇒ 非安全型(回避・両価型)



* ⇒ 非安全型(混乱型)

* ⇒ アタッチメント障がい(安全基地の歪み)

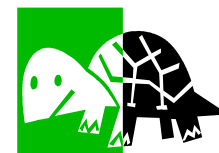
(自己を危険にさらす、しがみつき、役割逆転)

* ⇒ アタッチメント障がい(無アタッチメント)

(反応性アタッチメント障害、脱抑制性対人交流障害)

アタッチメント障がいの転帰

- * アタッチメント障がい
- * ⇒ (反応性ADHD) 反抗挑発症
- * ⇒ 素行症
- * ⇒ 反社会性人格障がい



虐待による子どもへの影響

- * 些細なことでも爆発的な怒り
- * 自己破壊的行動、他者への暴力
- * 被害感の強さ、他者や環境は自分を脅かすとの認知、**虐待的人間関係の再現傾向**
- * 絶望感、生きていく価値がない存在、刹那的で明日のない生活行動、目の前の楽しみへの過度の依存、非行
- * 多動、回避性・麻痺症状、解離症状

愛着の連続性と世代間連鎖

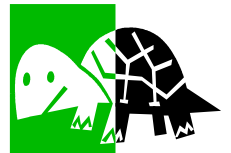
- * 大人になっても引き継がれる対人関係のパターン(70%～80%)
- 回避型＝アタッチメント軽視型、人を信頼せず、親密な関係を避ける
- アンビバレント型＝とらわれ型、求めたり拒否したり、過剰に傷つき不安定
- 混乱型＝未解決型、パーソナリティ障害

愛着の連続性と世代間連鎖

- * 対人関係のパターンや親密さの求め方だけでなく、生き方や関心、恋愛や子育ての仕方、ストレス対処や耐性、健康まで関わっている
- * 自分の思考や行動を支配する
- * 基本的安心感が乏しく、自己への違和感や自己否定を抱えやすい、

アタッチメントの連続性と世代間連鎖

- * 子育て困難を抱えやすい
- * 子どもとの関係性での影響＝回避型
は回避型の不安定愛着パターン
- * 虐待の世代間連鎖はアタッチメント問題とトラウマの連鎖

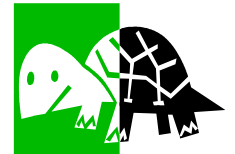


被虐待の子ども達

- * 安心感、安全感の乏しさ、過覚醒、トラウマ反応
- * 内的ワーキングモデルによる歪んだ認知
- * 人や社会への強い不信と怒り。自己価値感や自己肯定感の欠如、否定的自己像
- * 虐待者を養育モデル
- * 虐待関係の再現傾向(身体的虐待⇒暴力傾向、性虐待⇒性非行、性被害)
- * 子ども虐待予防(発生予防、進行予防、世代間連鎖予防)は、将来の犯罪加害、被害を予防する

子どもへの支援

- * 安心感安全感の獲得（居場所、基地）
- * アタッチメントの修復と再形成
（揺れ動く感情や行動化を受け止める）
- * 安心できる大人の存在
- * 発達特性があると極めて困難
- * 虐待と貧困の連鎖を断ち切る支援



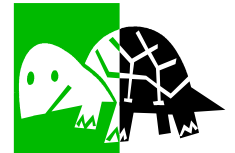
子育ての社会化ー社会的親、心理的親

* 子の育ちの中心は愛着(アタッチメント)

- ・親でなくとも愛着形成が可能
- ・保育園や学校、近隣等の様々な大人の
子どもの心に残る継続的な関わり

* 子育ての目標とするところ

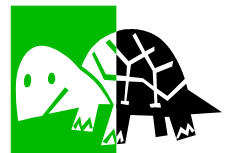
- ・誰かに支えられている感覚
- ・生まれてきてよかったとの感覚



平成28年改正児童福祉法

*第2条

すべて国民は、児童が良好な環境に生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、児童の年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その**最善の利益が優先して考慮され**、適切に心身ともに健やかに育成されるよう努められなければならない



子どもの最善の利益とは

「子どもの生存、発達を最大限の範囲において確保するために必要なニーズが最優先されて充足されること」

— 網野武博 —

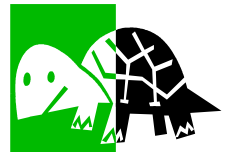
* 中心にあるのは安定したアタッチメントの形成ではないか＝生存と発達を確保する土台

子どもの最善の利益とは

*発達とは

身体の、知能の、情緒の、社会関係の、
行動上の発達を言う

英国1989児童法



子どもの最善の利益とは

*情緒と行動の発達とは

子どもが親や養育者、又は家族以外の者に対し、感情や行動で表わす反応が適切かどうか、**愛着の程度や質**、**気質の特徴**、**変化への適応**、**ストレスへの反応**、**適度の自己抑制**がどの程度できるか 「英国アセスメントフレームワーク」

子どもの最善の利益とは

* 社会関係の発達とは

人の立場で考える力、**共感力の発達**
親や養育者と安定した愛情ある関係
があるか、兄弟との関係は良好か、
加齢につれて同年代との友情や人生
に影響を及ぼす人物の重要性が増し
てくるか 「英国アセスメントフレームワーク」

子どもの最善の利益とは

* 自立 (アイデンティティ)

自分は他者と違う存在、**価値ある存在**なのだという**感覚**を成長とともに育てているか、自分やその能力に対する見方、自己像、**自己肯定感**、人格の個別性に肯定的な感情をもっているか。家族や同年代の仲間社会や文化の異なる集団さえも、帰属感と受容されている感覚をもっているか 「英国アセスメントフレームワーク」

平成28年改正児童福祉法

*第2条

- 2 児童の保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて第一義的責任を負う
- 3 国及び地方公共団体は、児童の保護者ととともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う

「新しい社会的養育ビジョン」

社会的養育の在り方に関する検討会報告(平成29年8月2日)

* 社会的養育との考え方

- * すべての子どもを、子どものニーズに沿って**親と共に社会全体で支援する**。親の任意性(子育て支援施策)、NPOやボランティア、近隣・地域の様々な関わり、**地域子育て支援**
- * 社会的養育の中に社会的養護。親の任意だけでなく社会の同意や関与(児童相談所や市町村の調査指導、権限介入等) = **通告義務**
- * 社会的養護の中に代替養育(里親等家庭外養育)

社会的養育はみなさんが最前線

- * ちよつと気になる子どもや親家族、関わり続け、**心のサインに傾聴**するだけでも事態は改善される。又は改善しようとする意欲を支える
- * 暖かい関わりと態度、まなざしを送り続ける。認める、褒めてエンパワメント
- * **見守る、寄り添う、つなぐ地域づくり**